

堂 本 彰 夫

短歌集

～過ぎ去りし日々～

平成 29 年 9 月

○刊行にあたって

この短歌集は、私（井上こと堂本）が、広島での学生生活の一端を含んで、その後沖縄に赴任してこの間（1990年以降）、人との出会い、研究会等の開催、学会・講演等の旅先等にて、折に触れて、見たこと、感じたこと等を、自らの交流誌「千原通信」（第1号：1990. 6～第40号：1995. 3）及び、その後身の研究室通信「南風の国から」（第1号：2000. 6～第60号：2015. 12）、「別刊南風の国から」（第1号：2003. 4～第44号：2011. 4）で書き綴ったものを、改めて、私なりの「短歌集」としてまとめたものである。

形式や内容は、もちろん通常の短歌としては、不具合のものも多々あるし、他人に見せられるような代物ではないことは分かってはいるが、私にとっては、すべてが懐かしく、意味あるものであり、新たな、これからの日々の意味？を、機会あるごとに逆照射（反芻？）するものとして、秘かに形にしておきたいということである！単純に言えば、私自身の「過ぎ去りし日々」の思い出として、手許に残しておきたいということである！

ということで、こんな形で世に出す？ことに、かなりの気恥ずかしさ（失礼さ？）を感じないわけではないが、これまで出くわした人々（縁の人々）、ひよんなことからこれを読んで貰える？人々、とにかく、何らかの想いを共有していただければ、望外の喜びではある？！

なお、本来所収されている、それこそ私（達）の長年の歩みを記す？、それぞれの「千原通信」「南風の国から」「別刊南風の国から」、そして「季刊沖縄生涯学習フォーラム」（第1号：1995. 6～第16号：1999. 10）の原本は、一部紛失しているものもあるが、すべて我が「岳陽舎」にて保管している。ご入用の際は、いつでも、お気軽に、下記までご連絡いただければ幸いである。

連絡先（事務所）：教育協働研究所～岳陽舎～

〒901-2225

沖縄県宜野湾市大謝名3丁目13-24

ホームページのURL⇒<http://www.gakuyou.jp>

メール・アドレス ⇒gakuyou17@outlook.jp

<1970年頃?>

○広島での、暗き?学生(学部)生活

・ 過ぎし日の 若き命を 懐かしむ
野辺の送りの会葬者に いつしか我もなりにけり

・ 偽りの 浪漫の旅の 行く末は
我が身すずろな 風の秋

・ 夕暮れの ^{ひと}人間の無常にかこつけて
偽の浪漫に 酔いしれる

・ 謙虚に生きれと ^{ひと}他人は言う
それも 空しい ^{しのめ}東雲路

・ 街頭に 座れば ^{ひと}人々は珍しが
それほど我が 滑稽か?!

○下宿先にて

- ・ ^{しあわせ} 幸福な ^{ひと} 女の笑いに誘われて

我が愛にも 幸あれと願う 夜更けの宿の窓越しに

- ・ ^{おも} 我慕う 愛あればと 思うこそ

永遠の世界と 訣別す

<1973. 10>

○特別登場→俳句（川柳？）

- ・ 誰となく 我が^{きわ}際を 過ぐる秋

- ・ 自墮落を ^{わら}嘲えば流す 枯れ涙

- ・ ^{ふるさと} 故郷に 背く心に 父母の顔

- ・ 懐かしき 想いは今朝の しぐれかな

○ =デラシネ=その反抗と浪漫

・ ^{とわ}永遠の世界と 訣別せむ

我が愛に願ひある これが二十二歳の 別れゆえ

・ 捨て去りし ものにさえ すぎる今の我

師走の暮れの 寒さ厳しき

・ しばらく見ぬ 友に逢いしが ^{なにゆえ}何故に

見えぬと尋ぬる ^{わけ}理由もなし

・ 春に背を向く 偽浪漫

デラシネ 語るは また慰めか

・ 冬の日の ^{はる}短き小春に 港見る

女の影に 白き石ある

< 沖縄に来て >

○ S市の元社会教育職員に寄せて

・ 小さくも かくも重たき 想い寄せ

いずこの自治体に 君はいるらむ

< 1990. 5. 2 >

○ 旅のつれづれに (6.29 大津・三井寺にて)

・ 人の世に誠ありしは おの己が身あるゆえ

諸仏・故人の想いもまた 現し姿に 温情 (円城) みるかな!

・ 琵琶の湖面にヨット浮く 眺めし我は

人の中の情けに浮く 観音堂の 風はさやけき!

< 千原通信第2号: 1990. 7. 20 >

○ 帰郷の旅

・ 故郷に 帰る想いは かくありなん?!

今在る人に 種々に託さむ!

< 千原通信第3号: 1990. 8. 20 >

○ つれづれなるままに

・ 感触を 得たいと願う 我が心

大海に糸を投げ入る 魚つりに似て

< 千原通信第4号: 1990. 9. 20 >

- ・ 暮れなずむ 南の国の 落陽に

多き想いの 秋をしのばす

<千原通信第5号：1990. 10. 20>

- ・ 成すことを いかなる想いで 君はやるらん

先行く人は ^{かぜ}疾風の精かも

<千原通信第6号：1990. 11. 20>

- ・ 過ぎ去りし 人との出会い 幾重にも

思い出したる 我は今

<千原通信第7号：1990. 12. 20>

- ・ 島々に 分かたる命の ^{うつ}現し姿

交わる^{ふみ}史に 何を語らむ

<千原通信第8号：1991. 1. 20>

- ・ いにしえと 遙か未来の 双方に

惹かれしものは いずこより

<千原通信第9号：1991. 2. 20>

- ・ こんなにも 思いを寄する 人がいて

それでも事は 容易ならまし

<千原通信第10号：1991. 3. 20>

- ・ 何げない 人の素振りや 言動に

まだ見ぬ未来の 予感ある?!

<千原通信第 11 号 : 1991. 4. 20>

- ・ 若者の 弱気を大人に 帰するとも

今為す術は あまりに少なし?!

- ・ 心優しき 若者たち

^{おの}己が来し方 いかん 映さむ?!

<千原通信第 12 号 : 1991. 5. 20>

- ・ 空梅雨の 続きし島の 空と海

青の過酷さ 歌には見えじ?!

<千原通信第 13 号 : 1991. 6. 20>

○父の他界 (1991 年 7 月 24 日)

- ・ 幼な児に かくも親のたけ 注ぎ込み

何故に悲しき 明日は訪る?!

<千原通信第 14・15 号 : 1991. 8. 20>

- ・ 数は少なき ことなれど 思わぬ出会いに導かれ

明るき笑顔の 戻ることあり?!

- ・ ^{おの}己が身かそけき若者の 瞳がとらえし 社教花

人は知らねど しかと咲きぬる?!

<千原通信第 16 号 : 1991. 9. 20>

- ・ 富士の宵 思いを寄せしは 我が都合

気づかず時は 次を急がす?!

- ・ 居た時は 気にもかけずに 通り過ぐ

雨の並木の 違いは重く?!

<千原通信第 17 号 : 1991. 10. 20>

- ・ 時^ふ経るに 人も組織も 変わりゆく

そこに生きよと しかと告げらる?!

- ・ 信州に 熱き思いの 人々居たる

余韻を残しも 眠たき “あずさ” ?!

<千原通信第 18 号 : 1991. 11. 20>

- ・ 過去と 未来の 狭間にて

変わりし我れを いかに関るらむ?!

- 訪れる その土地土地に 力あり

さりげなきものにも 確かな手応え?!

<千原通信第 19 号 : 1991. 12. 20>

- 変わりなき 時の流れの 一コマと

思いつ^{とし}新年は それでも騒がし?!

- 多様なる 人との交流 唱えつつ

メディアの向こうの 思いをどれ程?!

<千原通信第 20 号 : 1992. 1. 20>

- 雲間より 眺めし^{やま}岳は 悠久に

^{ひと}人間を寄せぬと 告ぐが如く!

- 日常の ふるさと訪ねし 我がまなこ

昔の姿 努めて追いし!

<千原通信第 21 号 : 1992. 2. 20>

- 旅人は 旅をする故 旅人ぞ

出会い別れに 情けは禁物?!

- ぎこちなく 別れ伝えし 我が胸の

離るる若者 故を知るらむ?!

<千原通信第 22 号 : 1992. 3. 20>

- 渡嘉敷に 集いし^{ひと}人々の 思いの中に

生涯学習 何を生ましむ?!
- 人間の縁 ^{いずこ}何処に生まれ ^{いずこ}何処に消えゆく

ただ生きる そのことだけを為せしままに！
 <千原通信第 23 号：1992. 4. 20>
- 時として 我が思いの先が 見えざりし

求めるものは ^{いずこ}何処に？
- 五日制 議論をよそに 刻一刻

果たしてその日は いかに来るらむ?!

<千原通信第 24 号：1992. 6. 10>
- 問題は 分かっているも その解決に

何故に到れぬ 人の世はもどかし！
- 親として 我が子に向ける まなざしは

なしきれぬ 限りの果ての闇まで見つめし！
 <千原通信第 25 号：1992. 8. 10>
- 人々の 暮らしはいかに？

訪れし 者には見えぬ その土地の” うむい” ！

- ・ 最西の 与那の国の 青き海

淋しき瞳の少年の眺むる海も 同じ青かな！

<千原通信第 26 号：1992. 10. 10>

- ・ いずこにも そこに生きる 人々あり

為せし営み 旅人には厳し！

- ・ 変わるもの 変わざりしもの

眺むる 自然は 神のまなざし！
(多良間島にて)

<千原通信第 27 号：1992. 12. 10>

- ・ ”ていだこ”のまちの 巨星^お墜つ！

故人の遺^{こえ}声に 涙す夫人 全てはそれ！

- ・ これもまた 出会いの 妙か？

術なく漂う 若者たちの恋！

<千原通信第 28 号：1993. 3. 10>

- ・ はからずも 孤立無援に陥らば

せめて無念の情けなりと 分かってやれる 人の世であれ！

- ・ あることを 為すも為さぬも 時は過ぎゆく

今ある時も まさにそれ！

<千原通信第 29 号：1993. 5. 10>

- ・ 若者に 告げたいし 思い たゆたいし

応えてくれる 意気を見つつ!

- ・ ゼロからの スタート故に 苦も多し

されど生み出す 喜びもまた…

<千原通信第 30 号 : 1993. 7. 10>

- ・ 隔たりは 時と想いと 住む場所と

ひと 人間は知りつつ 何故に埋めにし?!

- ・ 忙しい その字の意味を 知りぬれば

ハッと胸打つ 人は多けれ?!

<千原通信第 31 号 : 1993. 9. 10>

- ・ 親となり 数を重ねし 帰郷とて

黙して手を振る 母は変わらじ!

- ・ 偶然の 知己との出会い 懐かしむ

流れし時の 来し方いかに?!

<千原通信第 32 号 : 1993. 11. 10>

- ・ 変わらぬ陽射しに 聳え立つ 金属質の怪物は

ひと 人間の想いも 変えぬるか?

- ・ もどかしき 知の蓄積の ^{すべ}術いかに

集いしものは 何もて臨む?!

<千原通信第 33 号 : 1994. 1. 10>

- ・ 離れつも 駆せ参じる若者に 出会いし喜び束の間に

寒き旅路の 時は過ぎゆく

- ・ 送らるる 17人の 良き顔に

思い起こせし 過ぎし日の我!

<千原通信第 34 号 : 1994. 3. 10>

- ・ 巣立ちたる 若者たちの そこここに

生き始めむらし 気配漂う?!

- ・ うらめしき 南の島の 梅雨空は

これも自然と 論すが如く!

<千原通信第 35 号 : 1994. 5. 10>

- ・ ^{なにゆえ}何故に 人は結びし ^{よすが}その縁

血と地を超えた 知もまた重けれ!

- ・ 教育の 知の蓄積の もどかしさ

いかに次代は それを乗り越ゆ?

<千原通信第 36 号 : 1994. 7. 10>

- 機上より 見えにし島は 小さなけど
お下り立ちみれば かくも大きし!
- いずこにも 思いを寄せし 人はいて
すくせ宿世の如く そこに生き!
 (与論・徳之島行)
 <千原通信第 37 号 : 1994. 9. 10>
- みちのくの 熱き思いも たが違わずか
 五百羅漢の 顔の如くに!
- 卒業し 延ばしし帰郷に 特別の
 意味を求むは 今は酷かも?!
 <千原通信第 38 号 : 1994. 11. 10>
- うららかに そよぐ木々の葉 窓越しに
みやまなこ見遣る眼は 何を見つめむ?!
- のどやかに 滑り出したる 初春も
 場所ぞ違えば おもむき趣もまた?!
 <千原通信第 39 号 : 1995. 1. 10>

- つなぐとて 声で言うのは ^{やす}易けれど
先にありしは ^{ひと}人間のつながり!

- 辛うじて 維持する^{きわ}際は それ故に
思いと別に 朽ちぬるか?

- 験^しり 想い 創ろう! 祝 卒業!
<千原通信第 40 号 : 1995. 3. 10>

※以上、「千原通信」

- 咲く花に 辛き心も ^{なご}和まさる
焦りし日々に 別れ告ぐよう?!

- 覚悟という 二文字の意味の 奥深さ
今の今まで 知ることもなく?!
<南風の国から第 21 号 : 2006. 2. 16>

○喜び、感謝、そして新たな責任!!

- このことは ひよっとしたら 「唇気楼」?!
そう思わせる程の今の我 多少申し訳なくもなく?!

- 稜線上の歩みから こちらの側に 身置きしは
医療の他に 想いし人の情けあるから?!

- これからは 情念の人たる べくもあり
 そこに生きると 覚悟した故！
- 託す夢 そこに在りしは 自由大学
 信じたくは 人の情けと交流の輪?!
 <別刊南風の国から第 19 号：2006. 3. 23>
- 想いが先か システムか
 とにもかくにも 集まれし 時と場所欲し！
- 季節は巡り 気がつけば
 いつしか ^{なな}七月 ^え経りにけり！
 <南風の国から第 22 号：2006. 5. 15>
- 今はただ 当座の治療が 終わっただけなのに
^{つい}終の試練が 終わったよう?!
 <別刊南風の国から第 20 号：2006. 6. 8>
- 送り出す 心の沙汰は いかばかりか
 重ねし習いに いつしか褪せつつもあり?!
- 人を知り 社会を知るは ^{やす}易くも
 そこに己の生き様を 馳せにし歩みがあるや否や?!

- 満たされぬと 思う間は とこしえに
人の情は見えかねる かく言う我も?!

- 人がみな 失くして分かる 「普通」の意味
そを気づかすは ^{やまい}病 だけかも?!

<南風の国から第 25 号：2007. 3. 22>

○本当に、「あの時、あの事」が嘘のような今の彼

- 淡々と 生きていますと 言えるのは
それを支えし ある決意あればこそ!

- 人の生き死に はたまた 愛と憎しみ
^{おのれ}己の身にぞ ^{いか}如何にか映さん!

- 幾年を 重ねて見えし 世の無常
^{いにしえびと}古人も かくありなん?!

○古代史解明の最前線から学ぶものあり!!

- 真実を 偽らなければ 生きていけなかった!
そんな人々が創った ^{ひと}この日本とは?!

- 誰しもが 分かるはずの 真実も
当時と今の双方の 人の“想い”に左右さる?!

- 学問の 気高き？壁の こちらには
 自由な素人の 鋭き観あり！
 <南風の国から第 28 号：2008. 2. 8>
- 夢の実現?! 「泡瀬」と「てだこ」に
 賭けにし彼に 頬を撫でにし 春風！
 <南風の国から第 29 号：2008. 3. 24>
- 若者に 託す思いも それぞれの
 足場見えねば 伝えるは難し！
- 若者に 強気になったり 弱気になったり
 我が心の基軸 揺れに揺れたり！
- 若者のためにと願う行動も 彼らにすれば やはり迷惑？
 どこかで^す拗り返られし 我が思いの丈?!
- 知らせ聞き ある意味 我が身かもと
 思う心を ^{なべ}辺に押し込む
- ある時期の 我が身と重ねる その術は
 どこかで願う 免罪の故?!
 <別刊南風の国から第 27 号：2008. 7. 14>

- ・ 童心に 戻っているはずの 我が身なれど
どこかにそれを 照れなくもなく?!

- ・ いずこかに 怯えしものを 残しつつも
日々の暮らしの 喜怒に紛らす?!
<別刊南風の国から第28号：2008. 10. 10>

○第4回交流塾を終えて

- ・ とこしえに ^{ひと}他人の情けに 頼らなば
この^{であい}交流の場も 絶えて在らざる?!
- ・ 若者が 育つプロセス 見えにしも
誰もが満たされし プログラムはなく!

○岐阜大学・新課程協議会に参加して

- ・ そぼ降る 小雨に ^{かな}哀切しき未来?
新課程よ 如何に^{さまよ}彷徨う?!
- ・ 初めて覚えし ^{ちりゅう}知立の名
そこに^{ひそ}潜みし 怪しき 古社!

○生涯教育学会・上野に際して

- ・ 久々の 東海道中 新幹線

富士の高嶺も うたた寝夢枕！

- ・ 上野に集いし 生涯教育 研究者

今年の出会いは いかにあるらん?!

○「県友の会」発足に際して

- ・ 迂闊にも そのプロセス認知せず

欲^{ほつ}するところは 我が19年の 想いの形！

- ・ 指導者友の会 その名はともかく そこにある

人々の名前と^{ひと} 県の力?!

○筑紫哲也の訃報に接して

- ・ その人の 「日本はガン社会」と言う 警世の

指摘はどこに いかが届くらむ?!

- ・ 何が違って 何が同じなのか?!

密かに 乱るる 我が心のひだ！

○小松帯刀の生き様を垣間見て

- ・ 維新の真実^{あらた}新^{かに} 次代を生きた その人^{ひと}々に

思いを寄せるは やはり手前味噌?!

- ・ 時^{とき}代の 奔流^{ながれ}は 何ゆえに

個々の生き様 決めにけり?!

○19年の時の流れに

- ・ この世には 交わせし情け と

交せぬ情けの 二つある?!

- ・ 我が心の 座標軸

いつしか 迎るは 普通の上等!

<南風の国から第32号：2008. 11. 20>

- ・ “一樹百獲” こんな言葉に 出会おうとは

ほんの前まで 予感すらなく?!

- ・ 過ぎ去りし 歳月に別れを告げ 新たな歳月に思いを馳せる

そんな日々が 来ようとは?!

<南風の国から第33号：2009. 3. 23>

- おきなわで 生まれし今の 我が思い
二十歳を過ぎて いかにはためく?!
- 春の間に 時折襲う 雨風は
己が身の来し方 映すよう?!
- 目の前で うごめく^{すがた}光景は 紛れもなく
我が愛すべき 若者のはず?!
- どうすれば よいのか 伝えども
迷えし先の 哀しき当事者?!
- 来る人の 思いはいかに あろうとも
そこにいる人には 義理もなく?!
- 時は来る それを信じて やればよし!
今までだって 実はそう?!
- センターと 名づく施設は 多けれど
^{ひと}人々が集いて それとなる?!

- ・ あの時の 悩める教師が 我がゼミに
 人の縁^{えにし}は かくも奇なりや?!
- ・ 日々伝わる 娘の様
 されど駆けつけられぬ もどかしさ そはまた父?!

- ・ 送られし 孫の写真 面映ゆく
 実感伴わぬ おじいの振る舞い?!
 <南風の国から第 34 号 : 2009. 4. 20>

○ 距離^{らくさ}

- ・ これが今 我が究極の テーマぞと
 しかと自覚す! ただその理由^{わけ}哀し?!
- ・ 堂本に 語らす思い 我が思い
 こもまた その“距離^{らくさ}” ゆえ?!
- ・ 諸々を “距離^{らくさ}” と表す 我はまだ
 人間^{ひと}生きる辛さなぞ 分かつてはおらじ?!
- ・ そこここに “距離^{らくさ}” に苦しむ 若き人おり
 だが君たちは それは不似合い?!

- ・ 過ぎ去れば あらゆることも それはよし
 願わくば 何か事せよ！
- ・ 昭和の匂いの先生と 若き人より 擲揄もされ
 嬉しくもあり 哀しくもあり?!
- ・ この“^{らくさ}距離”とは 縁遠し 孫らの微笑み
 久しく病魔は 微笑まじ！
 <別刊南風の国から第 30 号：2009. 11. 20>
- ・ 往く年に いかなる思いを 渡し置き
 来る年に いかなる思いを託し入れ?!
 <南風の国から第 36 号：2009. 12. 24>
- ・ 「交流」の 意識託した 「千原通信」
^{とし} 歳月とともに 様は変わりぬ！
- ・ 新たに歩んだ 「^{ふえーぬ}南風の国から」
 紆余曲折 あるも 確かな足跡?!
- ・ B4の 紙一枚からの 発信が
 一人の ^{おとこ}人間の 生き様決めし！

- ・ あいつのこと 不安なしと 言いたくも

たまに脳裏の片隅にて ^{うごめ} 蠢し時もある?!

<南風の国から第 37 号 : 2010. 3. 18>

○ゼミ状況

- ・ その頑張りの プロセスが 一番大事とおもいつつも

やはり気になる 中身の出来映え?!

- ・ 若者の 日々の成長 つぶさには見えず

ただしその時は 突然あらわる!

- ・ 学生の 論文作成 手助けするも

教わることの多さもまた この仕事の妙!

○私生活上の状況から

- ・ 遠く離れた 娘・孫に 幾度となく求められ

妻不在のは日々 いつまで続く?!

- ・ アラフォーを もじったアラカン 名乗りつつ

大いなる決断 我が身に迫りき!

○我が心の奥底にて

- ・ 若き日の 暗いがあの世界 ひよんなことから蘇る?!

ドストエフスキーは いまも我が内に!

<南風の国から第 40 号 : 2011. 2. 8>

○なでしこジャパンに感激して

- ・ あれほどの 心打つ姿 久しく見えじ

ピッチに躍る なでしこの花!

- ・ 天災人災 相まみれ 欲しかった栄誉賞

二重の意味で 国救う?!

○熟議を終えて

- ・ ミラクルと 敢えて名づけし イベントも

終われば速やかに 次の仕事待つ!

- ・ 感激あり! 落胆あり!

かくて今年も 盛夏迎えし! いかなる成果で?!

○宮古島にて

- ・ 飛行機に 乗ればすぐそこ 宮古島

変わらぬ情け そこにあり!

- ・ 生まれ島 時の流れに ^{あそ}翻弄ばれようと

今いる人の ^{さち}幸は尊し!

<南風の国から第 43 号 : 2011. 8. >

- ・ 今まさに 還暦というもの 迎えし

^{たやす}容易きことのようにもあり 難しきことのようにもある?!

- 還曆に 己が覚悟を 重ねるも
ありふれし術と 思えなくもなし!
- その覚悟?は 別の覚悟?も欲す!
それを 人は 業?と呼ぶか?!
- 若者よ 舞台は目の前にある!
己の力で そこに立ち 舞え!
- 許せ!若者 出会いし時期は 我が終わり近く?!
されど 次はある!
- そは何をしに この世に出ずる?
その答え 見つけるために 出ずるやも?!
- 流れし時の 一コマに
何故に かくも 心動かす!

<南風の国から第 45 号 : 2012. 3. 16>
- 集まりし 人、人、人の 顔違え
想いをつなぐ 時空であれ!

・ ポインセチア 名さえ覚束なかった この花の
花言葉知りて 愛おしく思う！

・ 無理矢理に 内なる自己を 二つに分け
語りし我は いずこより?!

・ おの己が名を あざとく分けし その理由は
今の我には 似つかわぬ?!

・ 我が前で 授業するは はるばると
出雲の国よりおいででた 心優しき友人なり！

・ 授業をば 他人に任せし おの己が目は
何を見つめて これから生きる?!

・ 改革を唱える我に向けられし 是非の在処は ともかくも
その理は 私情になし！

・ 変えるより 変えられる方にぞ 覚悟要る！

それほど事態は 深刻なり！

<南風の国から第 48 号：2012. 12. 25>

・ 今年は どうする ASKs?!

その魂は ^{なへん} 奈辺に漂う?

・ 青年教育 それを自覚すれば するほど

齟齬や錯覚も 招かざる?!

<別刊南風の国から第41号：2013. 6. 7>

・ 「国策」を 追い風と思える時もあり 思えない時もある?!

南の果てにて 想いたゆたう!

・ クロスロードの只中に ^い 居ると知らでか 悩める個我たち

自他の行く末 誰ぞ知るべし?!

<南風の国から第51号：2013. 8. 9>

・ 望まれしもの 心ありし者には きっと伝わる

そは いつか形になればこそ!

・ その形 我にとっては ファイナル・ステージ

されど誰がいつ いかにか創らむ?!

・ 喜びは 常に応えてくれる ^{ゆかり} 縁の人々

教え子も今 それに加わる!

- 出会いし人は 多けれど
 心通わし ^{えにし}縁結ぶは やはり難し！
- 弱き我 流石に今は 認めざらまし
 だが培いし 意地は失わせざらむ！
- 奥深き 心の乱れ ^{さと}覚らるる
 ならばとて 逆手にとって演じ切れ！
- 何をしに ここ 沖縄の地に?!
 そに答えるは 今はまだ^{むご}惨き!!
- 唯一の 確かな手応え そこに見ゆ
 そを何とかすれば 答えとなるか?!
 <南風の国から第 52 号：2013. 12. 25>

○時を背負うということ

- 生きる意味 当然だが 時代が関わる！
 そを我が身が叫べば “時を背負う” と言うか?!
- その背負いしもの 人それぞれにあり！
 なかに 哀しきものあり また強きものあり!!

- ・ 哀しくも だが 強くもある背負いしもの

今の我には 　　それが羨まし?!

- ・ 背負いしもの 人は多くを語らじ!

語るより 　　何より生きねば 　　ならぬ故?!

○卒業するということ

- ・ 卒業とは 何かを終えること そして次のステップへと進むこと!

がっこう
大学の卒業とは 　　まさにこれ!!

- ・ 若者よ 　　願わくは 　　自ら選びしその時は

儀式となりしその時と 　　可能な限り合わせてくれ!

- ・ 卒業に 　　終わりはあるか? 　　“ない” と言いたい!

されど今 　　かく言う我も少し戸惑う?!

- ・ 人生は 　　予期せぬことの連続と 　　分かってはいても

慌てふためく! 　　“人が生きる” とはそういうこと?!

<南風の国から第 53 号: 2014. 3. 3 >

- ・ これほどまでに 　　違う^{いま}現在

あのもどかしき 　　悔しき日々は 　　一体いずこへ!

- 華やかな これが最後のステージと 凜と覚るその姿

老えども貴方は 今でもスター!!

<南風の国から第 54 号：2014. 4. 23>
- 若者に多くは望むな！ だが、失望もするな！

それが鉄則！ 分かっているながら 焦る我も?!
- 花を摘み 部屋に飾るは 何故ぞ?!

現し我が身に それを映したき?!

<別刊南風の国から第 44 号：2014. 5. 30>
- 来し方行く末 社会の奔流は 一つとも

個々の心は ゆらぎ縊なす!
- 意地張って 自ら見切りを つけるとぞ

騒げど身体は 既に受け入れており!

<南風の国から第 55 号：2014. 8. 14>
- 多彩な出会い 変わらず続く

されど 情けは 集いしものへ!

- ^{けなげ}健気にも 思いの丈を 我にくれ

凛々しく振る舞う若者たち 尊し！

- あれから 10 年 幾度か重ねた 実らぬ想い

これが最後と繰り返す 哀れかも?!

- これだけは 口にすまいと 留めし君に

見つめし我は いかで語らん?!

<南風の国から第 56 号：2014. 12. 12>

○心ある人達へ

- ^{こころざし}志 たとえ擦り減っても そこここに

想いの連鎖は ^{とよ}響み伝わる?!

- 一方で 心通わぬ関係も 生まれ出ず！

されど その時の流れぞ?!

- 心ある人達よ あなた達の厚情に 感謝と期待！

これからも 変わらずよろしく！

○巣立ち行く若者達へ

- ・ 出会いし^{とき}時期が いくばくでも 異なっていれば
また違う風景 見せれしものを?!
- ・ 許せ！若者 こんな^{すがた}自身 ^{さら}曝け出し
ただ人の世の^{であい}邂逅 かくありもあり?!
- ・ 君達の 笑顔と涙 幾重にも
我に告げにし その尊きを！

○新たなゼミ生達へ

- ・ 君達は 否が応でも 最期のゼミ生！
それを覚悟し ^{けなげ}健気に羽ばたけるや?!
- ・ 要介護？教授 君達なくして 何もできず！
いかなる^{とき}状況迎えど よろしく頼む！
- ・ イノ研は チームなり！
だが どんなチームになるかは 予め見えじ?!

○そして自分自身へ

・ しっかりしろ！ 残せしもの 繋がりしもの

そして生み出されしもの そこここにあるではないか?!

・ 決断が 少し軽めたこれからを いかにか創るか?!

おのれ
己への信頼は ただそこにのみある?!

・ 増えた孫 少しは増すか じいじい心?!

増すとは思うが 案ずべきもまた増ゆ?!

<南風の国から第 57 号：2015. 3. 20>

・ 心地よき うりずんの風 頬を撫ぜ

懐かしくもあり 切なくもあり?!

・ 集いし若者 予想以上の 手応えあり

されど安堵とばかりは いかぬ日もある!

・ あれこれ巡らす 一年後

かくの状況迎えるを つい先まで 想いもせず?!

<南風の国から第 58 号：2015. 5. 15>

・ 教育における融合か はたまた 協働か?!

求められしものは いまのよ 人間の社会のあり方!

- ・ 後期に賭けた 掛け言葉

好機（興起）生まずは 我が決断 危うし?!

- ・ 古代史の 謎に入り込み 我が行く末感わす!

そこに横たう 二重の藪?!

- ・ 親爺ギャグ 口する孫に 我の影!

胸の内まで 真似はされまじ?!

<南風の国から第 59 号：2015. 8. 14>

- ・ 社会教育から生涯教育へ そして今 学社融合から教育協働へ

我が辿りしものは ひとづくりとまちづくりの循環に!

- ・ 教育は すべて人と人との 出会いから

その出会いの妙が 人生創る?!

- ・ 数々の 無念の思いは 胸に収め

集いし^{ひと}人々の 笑顔にのみ応える!

- ・ 人は言う ネットワークよりパッチワークを!

はっとさせられるも やはり それも必要!!

- これが最後と 口にせど
 あり続けてと ^{かたわら} 一方で願う 実は複雑?!
- 一つひとつ 終わる今
 新たな次は 今ある今に いかにあるらん?!
- 若者達に託すこと 多くはないが いくつかある!
 それ目撃^みする時^{とき}日が ありやなしや?!
- 応えてくれる 若者達がいる 大人達もいる!
 数は限られるが だからやる!!
- ひよんなことから 新居購入!
 ここを拠点に いかにか 動かん?!
- 見渡せば 広がりし 心地よき東^うシナ^み海
 これからここで 紡ぐもの如何に?!
 <南風の国から第 60 号 : 2015. 12. 18>